

比較文学研究：異文化間のことばの物語

キーワード[比較文学, 文学理論, 翻訳学]

教授 加藤 健司

図解



ギリシャ語で書いたシリア出身のローマ人ルキアノスのドイツ語訳や英語訳



明治に日本に紹介されたドイツ文学者や医師、とその種本

内容:

日本文化・文学は翻訳でできている、というと怒られるかもしれませんが、いま私が書いているこの文字自体、大陸文化・言語から借用して改良発展をしたものですし、日本文学も海外の諸文学なくしては考えられません。翻訳を通じた文化・文学受容の結果が日本文化である、という側面は否定できないかと思えます。

なにも日本文学だけではなく、ヨーロッパでもたとえば18世紀のドイツ文学は、先行するイギリスの小説やフランスの戯曲等々の影響を浴びながら、『若きヴェルターへの悩み』などを生み出しています。イギリスの劇作家シェイクスピアの翻訳だけでも、何人ものドイツ人が翻訳を試み、それぞれの翻訳に係る考えに基づいたシェイクスピア翻訳を上梓して、それぞれが読者に異なった受容をされています。

異文化のあいだをつなぐのは「ことば」に他なりません。その「ことば」は言語であったかも知れないし、文字や地図や、あるいは言語が担う「思想」であったかも知れません。

アピールポイント:

面白いこと＝興味深いこと＝好奇心を刺激してくれること、を言語を武器に分解していくのが仕事と思っています。

分野: 比較文学

専門: 日欧比較文学、文学理論、翻訳理論

E-mail : katok[at]human.kj.yamagata-u.ac.jp

Tel : 023-

Fax : 023-

HP :

